

がっこう
学校だより

くすのき

がっこう
8・9月号



れいわ ねん がっ にち
令和5年 8月28日

よこはましりつほんもくみなみしょうがっこう
横浜市立本牧南小学校



ホームページはこちらから！ 随時更新中→

はっ うん けん じっ 撥雲見日

こう ちょう なか むら ひろし
校長 中村 宏

今年度は、2019年以来4年ぶりに平時通りの「お馬流し」が行われました。458回を数え、神奈川県指定無形文化財であるこの神事に、私たち本牧南小学校の教職員も参加をさせていただきました。簡単ではありますが、「お馬流し」の様子をお伝えします。

8月5日(土)境内で育てられた茅で作った6体の「お馬さま」が、本牧神社の社殿に迎えられました。翌8月6日(日)

には、社殿内で「お馬送り式」が行われ、本校の児童も「露払い」の役を担いました。その後、巡幸を通して町中の災厄が「お馬さま」に託され、本牧漁港から木造船で東京湾へ運ばれた後、海へと流されました。私も東京湾の船上から本校の広い学区を見つめ、学校の安寧と希望に満ちた明るい未来を祈りました。



この期間、本牧神社前の公園では盆踊りや露店が復活し、また本校の学区である「八若」や「新町」では、子ども神輿や山車が町内を練り歩いたり納涼祭りが行われたり、本牧地区全体が賑やかなお祭りの雰囲気に包まれました。疫病を払い、生活が穏やかに幸せであるように願うこの神事。本牧神社から発行された「十二天通信」例祭特集号のタイトル「撥雲見日」に

は、「暗く厚い雲が晴れ 眩しい日の光を振り仰ぐ 心配事がなくなって 将来に希望がもてるようになる」という意味があります。このタイトルから、コロナ禍であった3度の夏を乗り越え伝統の祈りを繋ぐことが叶った、その切なる喜びや熱い思いを感じずにはいられませんでした。

また今回の「お馬流し」を通して、多くの人と直接顔を合わせてかかわることができ、本牧の方々のこのお祭りにかける熱い思い、「ふるさと本牧」を愛する熱い思い、そして本牧南小学校への熱い思いをひしひしと感じました。このような熱い思いにあふれた「ふるさと本牧」で育てられた子どもたちは、近い将来、きっと「ふるさと本牧」を担い、希望をもたらし存在になることでしょう。

「撥雲見日」の如く、子どもたちが将来に希望もつことができるよう、家庭や地域の皆様とともに力を尽くしていこうと、私にも熱い思いが込み上げてきました。